学校番号	1015

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説　世界史Ｂ』　（山川出版社）						
副教材等	グローバルワイド最新世界史図表　（第一学習社出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界の歴史を地理的な基本的知識や日本の歴史を通し、世界の各国がつながっていることを学習していきます。細かな事柄よりも大まかな歴史の流れをつかむことが大切です。そして、歴史を学ぶことによって、現在や未来に生きていく方向性を育んでほしいです。

２　学習の到達目標

+世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	ワークシート レポート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート 報告会での発表	〔主題学習〕 調べ学習	〔主題学習〕 内容のまとまり
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	世界史への扉	**自然災害と人類** ・気候変動という地球的現象を歴史的に考察し、人類の生活形態や行動様式に大きな影響を与えてきたことに気付く。 **日本の年中行事・祭りと世界** 日本列島内の各地や身近にある祭礼および年中行事の歴史的な背景や由来について考察させ、日本史と世界史との密接な繋がりに気付く。 **弦楽器の世界史** 弦楽器という身近なものの歴史をたどることから、世界史の諸問題がとらえられることに気付く。	○	○		○	a:自然環境と人類の関わり、日本の年中行事や風習の中に世界の各地の風俗が混合していること、弦楽器の特性や日本化の過程、第二次世界大戦後の若者文化への理解を通して、世界史学習の意欲を高める。 b:日本史と世界史の関連や交流の歴史的な意義を主体的に考察し、まとめる。 c:世界の関わりの意義をレポートなどにまとめたり、発表したりする。 d:人類が受けてきた自然環境の制約とそれに適応するための手段を考察し、世界史学習における地理的視点の重要性を探究する。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
	序章　先史の世界	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付くと同時に、人類と言語の分化を理解する。	○	○		○	a:人類の進化と文明の特徴を理解し、人種や民族、語族の概念に関心を持って学習しようとしている。 b:人類進化の過程、農耕・牧畜の開始の意義などを、多角的に考察し、文章にまとめる。人種や民族といった分類を、偏見なく客観的に判断している。 c:教科書に掲載されている進化図や道具図、洞穴絵画などの図版や写真を適切に活用している。 d:人類の進化、文明の成立、人類と言語の分化に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第Ⅰ部 **第1章　オリエントと地中海世界**	**1．古代オリエント世界** 西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。 **2．ギリシア世界** 地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 **3．ローマ世界** ・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	○	○		○	a:　古代文明を、関心を持って学習しようとしている。 b:　オリエントの古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察し、文章にまとめる。 c:　教科書に掲載されている古代オリエント世界の地図や図版などの諸資料を適切に活用している。 d:　オリエント世界の展開、文明の特徴を理解し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第2章　アジア・アメリカの古代文明	**１．インドの古典文明** 南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。 **２．東南アジアの諸文明** 東南アジアの地理的特質を把握し、東南アジア世界の国家形成の過程を理解する。 **３．中国の古典文明** 東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。 **４．南北アメリカ文明** 先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。	○		○	○	a: インダス文明やアーリヤ人の諸国家が形成発展、東南アジアの諸民族独自の歩みや国家形成、中華文明形成期の社会や文化の特質、南北アメリカ文明の基層文化とインカ・アステカ両王国の特色を関心を持って学習しようとしている。 b: アジア世界の骨格が形成されたこと、アメリカ先住民の農耕文明の特色と、マヤ文明などの都市文明の独自性を考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているアジア・アメリカの地勢図や歴史地図、図版を適切に活用している。 d: 諸文明の特色を把握し、その基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
	第3章　内陸アジア世界・東アジア世界の形成	**１．草原の遊牧民とオアシスの定住民** 内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。 **２．北方民族の活動と中国の分裂** 東アジアにおける北方遊牧民族の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 **３．東アジア文化圏の形成** 隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界の国家体制の整備やその動向を理解する。	○	○		○	a: 騎馬遊牧民による国家の活動を、オアシス民の生活と比較しながら学習しようとしている。 b: 日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている地勢図、オアシスの生活を理解する図版やコラム、遊牧民の写真などを適切に活用している。 d: 日本をはじめとする周辺国家の形成を理解し、日本や新羅などの国家体制の整備に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度
	第Ⅰ部主題学習　時間軸からみる諸地域	主題を設定し、世界史を時間的なつながりに着目して整理・表現する技能を学ぶ。	○		○	○	a: 内陸アジア遊牧民の活動を例に主題の事項を年代順に整理したり、因果関係を考察しようとしている。 b: 内陸アジア遊牧民の活動の推移を、年表などに整理している。 c: 自ら設定した主題を時間的つながりで整理し、考察したことを発表・討論したりする。 d: 主題を設定し、関連する事項を年代順に並べたり、因果関係で結びつけたりする技能を身につけている。	・定期考査 ・課題レポート ・発表・討論 ・授業態度

前期期末	第Ⅱ部　4章　イスラーム世界の形成と発展	**1．イスラーム世界の形成** イスラーム世界成立の背景と特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。 **2．イスラーム世界の発展** トルコ系民族が内陸アジアから進出し、ムスリムの連携を維持しながらイスラーム世界を拡大させた過程を理解する。 **3．イスラーム化の進展** 神秘主義(スーフィズム)の影響、インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化など、イスラーム世界の拡大の過程を理解する。 **4．イスラーム文明の発展** イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する	○	○		○	a：ローマ世界の特色とキリスト教発展の意義を、関心を持って学習しようとしている。 b：皇帝理念やキリスト教の発展をもたらしたローマ文明と、のちのヨーロッパ世界との繋がりを多角的に考察し、文章にまとめる。 c：教科書に掲載されているローマ世界の地図や図版、および新約聖書などの諸資料を適切に活用している。 d：ローマの帝国化の過程やローマ法、皇帝理念、キリスト教などについて把握し、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第5章　ヨーロッパ世界の形成と発展	**１．西ヨーロッパ世界の成立** 地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。 **２．東ヨーロッパ世界の成立** ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラヴ人と周辺諸民族の自立の過程を理解する。 **３．西ヨーロッパ中世世界の変容** 十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解する。 **４．西ヨーロッパの中世文化** 教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。	○	○		○	a: フランク王国とローマ教皇の提携の意義、ビザンツ帝国の特色とスラヴ人など周辺民族の活動、西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容過程、中世文化の特色とキリスト教会の果たした役割について関心を持って学習しようとしている。 b: 封建社会の仕組みとローマ教皇権の発展、ビザンツ帝国の首都コンスタンティノープルが経済的に発展した理由や、帝国とスラヴ人との関係、封建社会の変容やヨーロッパの拡大、国王による中央集権化、修道院運動やイスラーム文明の影響など、中世ヨーロッパ文化を多面的に考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているビザンツ帝国や東ヨーロッパ世界の領域図、十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大、中世都市と交通路といった地図といった図版を適切に活用している。 d: ビザンツ帝国やスラヴ人諸国家によって形成された、東ヨーロッパのギリシア的世界の多様性、西ヨーロッパ封建社会の変容、中世都市と商業の発展、諸国の国王による中央集権化の過程に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第6章　内陸アジア世界・東アジア世界の展開	**１．トルコ化とイスラーム化の進展** 内陸アジア世界におけるトルコ人の活動とイスラーム化の進展を理解する。 **２．東アジア諸地域の自立化** 契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。 **３．モンゴルの大帝国** モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界にあたえた影響の大きさを理解する。	○		○	○	a: トルコ人のイスラーム化と西方への民族移動の世界史的影響、中国周辺諸国の変化、契丹や女真と宋の政治的・軍事的対立と交流、宋代の産業や文化の発展、モンゴル帝国が掌握した内陸アジア全体に及ぶネットワークとその影響について、関心を持って学習しようとしている。 b: モンゴル帝国が内陸アジア諸都市の、また元朝が海域のネットワークを支配下に置いた意味を、社会経済的な視点から考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているモンゴル帝国の領域図や帝室の系図・ワールシュタットの戦いといった図版・写真などを適切に活用している。 d: 契丹や女真の二重支配体制の仕組み、宋の中央集権的統治体制とその社会経済の発展や中国的文化の特色、モンゴル人が築き上げたネットワークと、14 世紀以降、その再編・解体がもたらした諸地域世界への影響に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度
	第Ⅱ部主題学習　空間軸からみる諸地域世界	同時代性に注目して主題を設定し、世界史を空間的なつながりに着目して整理・表現する技能を学ぶ。	○	○	○	○	a: 1 世紀の世界を俯瞰し、特色ある諸地域世界の国家やそれを建てた民族、交易ルートなどを空間的に学習しようとしている。 b: 11 世紀の諸地域世界を形成することになった国家の特徴を、宗教に注目して考察し、文章にまとめる。 c: 11 世紀の諸地域世界を形成した国々を地図上に表したり、空間的なつながりから捉えて整理・考察したことを発表・討論する。 d: 主題を設定し、関連する事項を地図で表現したり、世紀ごとに比較したりすることを通して、空間的なつながりで整理し、表現する技能を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度

	第Ⅲ部　第7章　アジア諸地域の繁栄	**１．東アジア世界の動向** 中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解する。 **２．清代の中国と隣接諸地域** 清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解する。 **３．トルコ・イラン世界の展開** トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向とその社会や文化の特質を理解する。 **４．インド・東南アジア世界の展開** 南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解する。	○	○		○	a: 明朝の経済的繁栄と銀経済の進展、科学技術への関心を特色とする文化活動、清代の中国とチベットや琉球・日本・朝鮮といった隣接諸地域の動向オスマン帝国、ティムール朝、サファヴィー朝の領域拡大の過程や興隆、イスラームの東南アジアへの浸透やヨーロッパ勢力の進出について、関心を持って学習しようとしている。 b: 明朝が近隣諸国との間に築きあげた冊封＝朝貢体制の変化、清朝と周辺諸地域との関係の変化を関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている明清帝国の領域図や周辺諸地域図、オスマン帝国の最大領域を示す地図や、イェニチェリなどの図版などを適切に活用している。 d: 日本や女真を中心とした東アジアの状況の変化、イスラーム帝国の強大な皇帝権や官僚制、ヨーロッパ世界との関わり、異民族統治の特色に関する基本的な知識を身につけているイスラーム教徒とヒンドゥー教徒融合の試み、インド地方政権の台頭や東南アジア交易世界の発展に関する基本的な知識を身につけている	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

後期中間	第8章　近世ヨーロッパの形成	**1．ヨーロッパ世界の拡大** ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 **2．ルネサンス** ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する **3．宗教改革** ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 **4．ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成** 近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	○	○		○	a: 新航路の開拓事業や征服活動と、それに伴うアメリカ先住民社会の変容や商業革命、宗教改革の背景と影響、宗派や広がった国家による差異、ヨーロッパ諸国がたがいに独立した主権国家として競合しながら国際秩序を形成していった過程を、関心を持って学習しようとしている。 b: 大航海時代を世界の一体化や資本主義経済発達の基盤、宗教改革やカトリック教会の革新を、世俗の政治秩序の変化、オランダ・フランス・イギリスといったヨーロッパ諸国の勢力交替を、「17 世紀の危機」の時代を境界として考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているヨーロッパ人の航路と探検図、世界地図やアステカ征服の図版、新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論題」などの資料、ヨーロッパ主権国家の領域地図や内乱、戦闘の図版を適切に活用している。 d: 大航海時代の探検・征服事業の過程とアメリカ先住民社会の変容、ルター、カルヴァンによる宗教改革の拡大、イギリスの改革、対抗宗教改革、15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していった過程に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第9章　近世ヨーロッパ世界の展開	**１．重商主義と啓蒙専制主義** 17～18 世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を、重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。 **２．ヨーロッパ諸国の海外進出** ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解する。 **３．17～18 世紀のヨーロッパの文化と社会** 17～18 世紀におけるヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。	○	○		○	a: イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争、東ヨーロッパ諸国の台頭、アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程と、三角貿易のもたらした国際的な社会・経済の変化、科学革命と啓蒙思想を背景とするヨーロッパの文芸思潮について、関心を持って学習しようとしている。 b: 17～18 世紀のヨーロッパ諸国の活発な経済活動と植民地争奪戦争、17～18 世紀におけるヨーロッパ文化の特色を、宮廷文化と市民文化とを対比しながら考察し、表にまとめる。 c: 教科書に掲載されている 18 世紀半ばのヨーロッパ諸国の領域をあらわした地図や図版、王家の系図や「権利の章典」、17 世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地をあらわした地図、社会風俗の図版などなどの資料を適切に活用している。 d: 西ヨーロッパ諸国の経済活動と植民地争奪戦争の状況、その結果としてアメリカ・アフリカを巻き込んだ大西洋世界に近代分業システムが成立したことに関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	**１．産業革命** イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解する。 **２．アメリカ独立革命** アメリカ独立革命の経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。 **３．フランス革命とナポレオン** アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。	○		○	○	a: 産業革命の世界史的背景、技術革新や交通革命の進展と波及共和政の大国を確立したアメリカの独立と、その憲法の内容や思想的背景、フランス革命の経済的、思想的背景について関心を持って学習しようとしている。 b: 資本主義体制の確立と社会の変容について、社会問題・労働問題と関連付け、アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理を、現代社会の諸問題と対比し、フランス革命を大西洋を挟んでおきたアメリカ独立革命と対比しながら考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている地図や図版、都市の人口増を示す表などの諸資料を適切に活用している。 d: 産業革命が最初にイギリスにおこった理由、繊維部門の技術革新と交通機関の改良、資本主義体制が世界市場に与えた影響、イギリスの北アメリカ植民地の状況、独立戦争の経過と合衆国憲法の特徴、フランス革命がおこった社会構造、恐怖政治に至る革命の進展過程に関する基本的な知識を身につけている	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度

	第11章　欧米における近代国民国家の発展	**１．ウィーン体制の成立** ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 **２．ヨーロッパの再編** クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解する。 **３．南北アメリカの発展** ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。 **４．19 世紀欧米の文化** 19 世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解する。	○		○	○	a: ウィーン体制の特色とその崩壊過程、社会主義思想の成立と普及、ロシアの南下政策とそれに伴うヨーロッパ列強の対立、イタリア・ドイツの統一の背景や過程、ラテンアメリカ独立後における社会・経済の状況、19 世紀欧米の文芸思潮の変化、近代諸科学や技術の発展の影響について意欲的に追究しようとしている。 b: 1848 年革命を、ヨーロッパの「大衆貧困」といった社会問題と関連付け、クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交に関して、のちの第一次世界大戦に関連付け、環大西洋革命の視点から、ヨーロッパ諸国の動向とラテンアメリカの独立を関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているウィーン会議後のヨーロッパ諸国、イタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領域拡大をしめす地図や絵画・図版などを適切に活用している。 d: ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパ諸国の自由主義や民主主義的な政治改革の動向、クリミア戦争とロシアの皇帝主導の近代的改革、ヴィクトリア時代のイギリスの繁栄、フランス第二帝政とその崩壊、イタリア・ドイツの統一、ラテンアメリカの独立の経過に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポート ・発表・討論 ・授業態度

後期期末	第12章　アジア諸地域の動揺	**１．西アジアの変容** 西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解する。 **２．南アジア・東南アジアの植民地化** インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解する。 **３．東アジアの激動** ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解する。	○	○		○	a: ヨーロッパ勢力の干渉によるオスマン帝国と西アジア地域の変容、ムガル帝国の解体と東南アジアの植民地化、アヘン・アロー両戦争、太平天国の動乱で清朝の支配が大きく動揺し、近代化への取り組みが始まったことを、関心を持って学習しようとしている。 b: 西アジアでイスラーム教の伝統に回帰する動きやアラブ人のナショナリズムの萌芽がみられたこと、インド大反乱の社会的背景やタイの植民地化回避の理由、民衆の結社運動と太平天国の動乱を、アヘン戦争後の社会不安と関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている19世紀の西アジアとバルカン半島の地図、東南アジアの植民地化を示す地図、ロシアの東方進出や東アジアの動向をあらわす地図や図版を適切に活用している。 d: オスマン帝国の動揺とタンジマート改革の挫折、アラブの民族運動、イラン・アフガニスタンの対応、イギリスによるインドの植民地化とインド社会の停滞から発生した大反乱、ヨーロッパ諸国の東南アジアの分割と植民地化、アヘン・アロー両戦争やロシアの進出により清帝国が動揺し、洋務運動に代表される近代化への取り組みが始まったことに関して、基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第Ⅲ部主題学習	**資料からよみとく歴史の世界** 主題を設定し、選択したその時代の資料を多面的・多角的に考察し、読み解く技能を学ぶ。	○		○	○	a: ゴヤの描いた絵画と文字資料から、ナポレオンのスペイン支配の状況を確認しようとしている。 b: ゴヤの描いた絵画と文字資料から、スペイン人の国民性や抵抗の動きを考察し、箇条書きにまとめる。 c: ゴヤの描いた絵画と文字資料の例だけでなく、自ら選んだ資料や絵画、風刺画、写真などを読み解き、整理・考察した内容を発表・討論する。 d: 主題を設定し、選択したその時代の資料を多面的・多角的に考察し、読み解く技能を身につけている。	・定期考査 ・課題レポート ・発表・討論 ・授業態度

	第Ⅴ部　第13章　帝国主義とアジアの民族運動	**１．帝国主義と列強の展開** 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解する。 **２．世界分割と列強対立** 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 **３．アジア諸国の改革と民族運動** 欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解する。	○	○		○	a: 欧米列強が植民地獲得や勢力圏拡大の競争を繰り広げた結果、列強の二極分化が進み、第一次世界大戦に繋がる危機が高まっていったこと、帝国主義列強の侵略にさらされたアジア諸国における民族運動の形成と、このような世界情勢の中で日本が列強としてアジアへの勢力拡張に加わったことを、関心を持って学習しようとしている。 b: 経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が、世界各地の社会の変容に与えた影響、帝国主義列強の植民地支配を受けたアジア諸地域で民族意識が覚醒し、解放・独立をめざすナショナリズムの運動が展開されていったことを、現在の国際状況や問題と関連付けて考察し、文章にまとめる c: 教科書に掲載されているアフリカ植民地化の地図や、アメリカの対外進出の関連地図、同盟・協商関係図、バルカン諸国や第一次世界大戦の戦場となった地域をあらわす地図、新兵器などの図版を適切に活用している。 d: 欧米列強のアジア、アフリカ、太平洋地域、ラテンアメリカにおける植民地獲得や勢力圏拡大の競争に関する基本的な知識を身につけている。列強の二極分化の過程とバルカン半島をめぐる危機の高まりに関する基本的な知識を身につけている。中国分割の危機と辛亥革命、インド、東南アジア、西アジアにおける民族運動の形成に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第14章　二つの世界大戦	**１．第一次世界大戦とロシア革命** 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20 世紀の変動の機転となったことを理解する。 **２．ヴェルサイユ体制下の欧米諸国** 国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解する。 **３．アジア・アフリカ地域の民族運動** 中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解する。 **４．世界恐慌とファシズム諸国の侵略** 世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する。 **５．第二次世界大戦** 第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。	○		○	○	a: 第一次世界大戦勃発の経緯、戦時外交と総力戦の性格、ロシア革命の世界史的な意義と影響、ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係や矛盾、イタリア、ドイツ、日本のファシズムの特徴と勢力拡張の過程、第二次世界大戦の開戦に至る経過、戦争の拡大と戦場の広域化、核兵器などの大量破壊兵器の被害について、関心を持って学習しようとしている。 b:第一次世界大戦の原因や性格について、これまでの戦争との違いや日本と中国、イギリスとインドやイスラーム諸国といった、干渉国と民族運動の高揚の関係、ファシズムという運動を 20 世紀における大衆社会の出現、第二次世界大戦の持っていた複合的で複雑な性格を戦後の国際社会の方向性と関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されている大戦後のヨーロッパや東ヨーロッパ・バルカンの言語分布地図、ドーズ案後の資本の国際的循環を示す諸資料、1920～30 年代の中国、第一次世界大戦後の西アジアの地図、ヨーロッパ戦線や太平洋戦争の地図、第二次世界大戦の国際関、図版・写真などを適切に活用している。 d: ヴェルサイユ・ワシントン両体制の問題点と、アメリカの繁栄、ソ連邦の社会主義建設といった欧米諸国の動向、中国における民族運動の高揚、第二次世界大戦におけるヨーロッパから太平洋に至る戦場の広域化、強制収容所の建設や核兵器の使用といった残虐行為など、戦争の惨禍に関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度

	第15章　冷戦と第三世界の独立	**１．戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立** 第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解する **２．米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興** 朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。 **３．第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り** 戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解する。 **４．石油危機と世界経済の再編** ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。	○	○		○	a: 米ソそれぞれの経済協力と軍事ブロックの形成による冷戦構造、朝鮮戦争後、核兵器開発競争や平和共存政策といった国際的な緊張・融和がくり返されたこと、経済的自立の困難さや開発独裁体制の成立、中国の混乱など、第三世界諸国における危機、オイル＝ショック以降の先進国の社会変容や途上国の工業化について、関心を持って学習しようとしている。 b: 親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策、アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を、冷戦の緩和、冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連付けて考察し、文章にまとめる。 c: 教科書に掲載されているアフリカ諸国の独立、中東戦争によるイスラエルの領土拡大をあらわす地図、諸地域の図版・写真を適切に活用している。 d: ・国際連合を柱とした戦後の世界秩序の形成、ヨーロッパの東西分断と冷戦体制の確立、アジア諸地域の独立、アジア＝アフリカ会議や非同盟諸国会議などにみられる、第三世界の連帯の動き、東欧社会主義諸国の改革、ソ連邦の解体過程、ＥＵやＮＡＦＴＡなど先進経済地域の統合化の動きに関する基本的な知識を身につけている。	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・授業態度

	第16章　現在の世界	**１．社会主義世界の変容とグローバル化** 東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。 **２．途上国の民主化と独裁政権の動揺** 途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解する。 **３．地域紛争の激化と深刻化する貧困** 世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。 **４　現代文明の諸特徴** 科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解する。	○		○	○	a: 情報技術革命によって市場経済の世界化がより進展し、地球規模での相互依存が高まったこと、ラテンアメリカやアジアの途上国における強権支配の後退と民主化の進展、・新たな地域紛争の頻発、経済格差や深刻化する貧困問題、高度な科学技術のもたらした生活の変化と、それに伴う諸問題について、関心を持って学習しようとしている。 b: 中国・ベトナムで進む市場開放と工業化の進展、湾岸戦争とアフガニスタンやイラクに対する対テロ戦争における国際連合の行動の差異、地球環境の破壊といった現代文明の危機を多角的に考察し、「多文化主義」や「共生」といった思想の探究を表現 c: 教科書に掲載されている独立国家共同体の地図、ヨーロッパ統合の歩みなどの諸資料やアフリカの飢餓状況の資料や写真などを適切に活用している。 d: ラテンアメリカやアジアの途上国で進展した民主化の過程と、アジア社会主義諸国の経済開放政策やその変容、東欧やロシア、中東からアジアにかけて多発する地域紛争、アフリカの民主化と貧困問題、対テロ戦争と紛争解決や軍縮の試み科学の実用化に伴う生活や環境の変化、現代文化の思想的な枠組み、現代文明による地球的規模での危機や新しい模索に関する基本的な知識を身につけている	・定期考査 ・課題レポートや発表 ・発問評価 ・授業態度 ・課題レポートや発表

	第Ⅳ部主題学習	**資料を活用して探究する地球世界の課題** 地球世界の課題に関する主題を設定し、選択したその時代の資料を活用して探求し、表現する技能を学ぶ	○	○	○	○	a: 食料価格指数と開発途上世界における栄養不足人口の推移を示したグラフ資料から、飢餓の問題や影響を確認しようとしている。 b: 食料価格指数と開発途上世界における栄養不足人口の推移を示したグラフ資料から、飢餓の増大に対して今できることを議論し、判断している。またその思索の過程を文章でまとめる。 c: 提示されたグラフ資料の統計だけでなく、関連する資料を活用して問題を探求し、考察した内容を発表・討論する。 d: 地球世界の課題に関する主題を設定し、選択したその時代の資料を活用して探求し、表現する技能を身につけている。	定期考査 ・課題レポート ・発表・討論 ・授業態度

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。